

2025/7/7 (月)

朝の礼拝

聖書 申命記 6章4,5節 (旧約聖書 276頁)

聞け、イスラエルよ。私たちの神、主は唯一の主である。心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くしてあなたの神、主を愛しなさい。

目に見えない導き

学院聖句には「主なる神を愛しなさい、隣人を自分のように愛しなさい」とあります。「愛」が繰り返されます。「愛」という言葉は『創世記』から出てきますが、「愛する」という表現は恋愛、結婚、親子、略奪、そして友情などの人間同士の関係で表現されています。

一方、神または主を愛するという表現は『出エジプト記』20章の「十戒」で「私を愛し」(6節)とあるだけで、その他は、主にこの『申命記』で繰り返されます。『申命記』は英語で Deuteronomy、「第二の掟」の意味です。その背景には旧約の民が約束の土地を得て、繁栄した時代がありました。

土地も家も、豊かな収穫も、彼らの生活を一変させました。部族は一つの国を作り、王や貴族は宮殿に住み、神殿を建立し、軍事力を増強、貿易で富を築きました。彼らは十戒を忘れ、礼拝を怠り、お金を神と拝み、不正や格差が社会に広がりました。目に見えるものだけを信じたのです。

目に見えない存在を畏れず、礼拝は形だけとなり、神でないものを神と信じる偶像崇拜です。しかし「おごれるもの久しからず」と言いますが、大国に侵略された彼らは分裂、滅亡しました。その時、目に見えない導きを信じようと呼びかけたのが冒頭の聖書箇所、学院聖句の起源なのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたに赦され、生かされている恵みに感謝します。夏休みを前に、四月からの学びをふり返り、目に見えないあなたの導きに感謝します。どうかわたしたちの過ち、怠りを赦し、どうか次の学びへと導いてください。また今、病にある方々を覚えて祈ります。どうかひと時でも早く共に感謝を献げる日を迎えることができますように慰め、励ましてください。今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン